



# 墨東の学び

学校通信②1月末号  
令和6年1月31日(水)発行  
東京都立墨東特別支援学校  
校長 田村 康二郎

## <報告> PTA との共催で合同避難訓練を行いました！

PTA からの御案内に賛同されて御参加くださった保護者会員、校内待機の保護者の皆さんも含めて、校内にいる全児童・生徒、そして全教職員・保護者の避難と誘導、避難場所での待機、避難者の点呼、見残し防止のための校内2次搜索を参加保護者の皆さんにも体験していただくとともに、分担エリアの2次搜索もお願いしました。直後の参加保護者と学校担当者による防災懇談会では、率直な意見も多数頂戴しました。例えば「避難時の階段の転落防止チェーンの扱い」「PTA が独自に校内待機や避難してきた本校児童・生徒とその保護者の為に用意している非常食・非常用飲料水等の備蓄品の在り方(品目・入替・活用方法)」「保護者が避難誘導に加わる際、明確な役割分担と適切な手順」他でした。いずれの意見も大変参考となります。今後の訓練に反映させていきます。また、「実際に参加することで、初めて学校での組織的な避難訓練の状況が実感できました!」「機会があれば誰もが参加されることをお勧めします。予期せぬ大災害時の対処に役立つはず。」との思いは参加者皆が賛同できた意見でもありました。来年度は、PTA 共催の避難訓練を増やし、希望される方が参加しやすいように計画していきます。改めて連携の要となつて頂いた PTA 役員の皆様、ありがとうございました。

## 祝! 病院訪問学級の中3生徒2名に都校長会長表彰

入院治療下にあっても、真摯に学ぶ態度が他の入院生の模範として本校中3生2名(いるか分教室と病院訪問学級)に対し、東京都病弱特別支援学校校長会長からの表彰状が先日、それぞれの入院先で贈呈されました。

表彰者のお一人が入院する東京都リハビリテーション病院では、病院訪問教育を受入れて以来の快挙として、会場を特設していただき、院長等関係者と保護者立ち合いの下で本校校長からの表彰状贈呈を行うことができました。担当教員はもとより、本校全教職員・病院関係者にとっても大きな喜びを分かち合うことができました。

## <予告> 2/1 にロボットプログラミング選手権開催!

### 全国大会に関東甲信越地区大会を勝ち抜いた2チーム出場

10月、関東甲信越地区大会の激戦を勝ち抜いた本校の病弱教育部門の2チーム「サザンドラ・スヌーピー・サク」と「うさぎ・スカイ・ジャイアンツ」が全国優勝を目指し、プログラムに磨きをかけて出場します。(ファイナル会場に送ったプログラムが対戦型ロボットに取組まれ、土俵上で対戦します。各地区大会を勝ち抜いた20チームが競います。)

吉報を待ちます。次号で結果を報告します。

(情報収集は、ロボットプログラミング選手権 2023 で検索)

## <予告> 2/17 (土) 都ハンドサッカー大会開催!

待ちに待った都ハンドサッカー大会が開催されます。

### 令和5年度 東京都肢体不自由特別支援学校 ハンドサッカー交流会

日程: 令和6年2月17日(土)

時間: 開会式 9時35分 ~ 閉会式 15時40分(予定)

会場: 武蔵野の森総合スポーツプラザ メインアリーナ

\*例年の駒沢オリンピック競技場とは異なります。

交通: 京王線飛田給駅下車 徒歩10分 味の素スタジアム前

駐車: 各校選手チームは、各校に配車の送迎バス利用可。

応援の保護者・教職員は、付属駐車場又は近隣有料

駐車場も利用可能。満車となる場合もあり得ます。

2学期後半、本校肢部門中高生の希望者を対象に土曜日の練習日等に練習を重ねてきたハンドサッカー部の活躍の場が上記のように広報されました。

約4年間に及ぶコロナ禍で中止となったり、縮小開催となったりしていましたが、今回は本格再開への大きなステップとなります。

メインアリーナ観客席には都内肢体校約20校の保護者が結集し、高校野球の夏の甲子園大会を超える熱烈な声援を送り合います。今回、本校は新調した赤・白・青の応援幕を持ち込み、観客席に掲げる中で、本校選手たちのシュート・パス、ブロック等のプレーを応援します。どなたでも応援参加可能です。会場でお待ちしています。

(途中での出入りも自由にできます。)

これを機に、東京発祥のこのスポーツの歴史やルールのあらましと見どころを御紹介します。

(ルールは改訂される場合があります。)

## ハンドサッカー大会の歴史~東京から各地域に~

平成の初期、ある養護学校(現在の肢体不自由特別支援学校)の先生が研究会で各学校の体育の授業で行っている球技を紹介し合ったことから始まりました。共通性のある内容であったため、交流試合をしようということになり、ルールを統一させて実施した試合がその発端です。第1回(1989年度)、第2回(1990年度)の交流試合は、府中養護学校(府中けやきの森学園の母体校)と江戸川養護学校(鹿本学園の母体校)の2校で行われ

ました。この試合を参観した教員たちが自分の勤める学校も参加させたいと広げていき、年を追う毎に参加校が増えていきました。

現在では、東京都肢体不自由特別支援学校体育連盟主催の都大会へと発展し、都内にある国立を含む肢体不自由特別支援学校全19校のほぼ全校が参加する大きな大会となっています。

また、過去には、茨城県でも大会が開かれたことがあり、さらに国体に相当する全国障害者スポーツ大会2013東京大会ではオープン競技として採用されるなど、徐々に関東そして全国に広がっていきました。

その後、2020オリパラ東京大会に向けて公式競技であるボッチャも浸透していきました。

子どもたちが自分の特性や志向に合わせて活躍できるスポーツ種が増えた事は嬉しいことです。

### 解説「ハンドサッカー」ってどんなスポーツ？

【ハンドサッカーとは】既存の競技では十分に対応しきれない様々な実態の障害を有する子供達に合わせ、活躍の場を広げ、個々の能力を引き出し、心身を健全に育成するために考え出された競技です。つまり、障害の比較的重い者と軽い者が協力しあって一緒に活躍できるように工夫したチームスポーツです。

【ハンドサッカーの成り立ち】肢体不自由の特別支援学校には、様々な実態の児童・生徒が在籍しています。体育の授業では、車椅子バスケットなどのパラリンピックを始めとするポピュラーな障害者スポーツや電動車いすサッカーなどの特定の障害種別による競技は、授業でみんなが一緒に行うのは困難でした。そうした理由で陸上競技などの個人種目が多かったのです。しかし生徒がやりたいのは野球やサッカーのように仲間とチームを組んでの球技でした。この願いを受け止めた教員が皆で一緒に参加できる競技として、試行錯誤しながら創り出したスポーツが「ハンドサッカー」の原型でした。

### 「ハンドサッカーとは？」ルールと役割の早わかり

#### ルール①「ポジションの設定」

☆フィールドプレイヤー (F) : 4名  
コート上を自由に動きまわることができ、比較的機能障害が少ない選手が対象となります。

☆スペシャルシューター (SS) : 1名  
コート上を自由に動きまわることができ、比較的機能障害が重度の選手が対象となり、スペシャルシューターエリアに入ること、サブゴールへのシュートの権利が得られ、2投の試技で成功することに1点ずつ加算されます。(大会レギュレーションにより異なります。)

☆ポイントゲッター (PG) : 1名  
ポイントゲッターエリアに位置し、他選手からパスを受けられると1点が加算され、さらに自らの能力に応じたシュート課題に挑戦する権利を得て、成功すると更

に1点が加算されます。

#### ☆ゴールキーパー (GK) : 1名

ゴールエリアに入ることのできる唯一のプレイヤーとしてゴールを守ります。(コート上に出て行くことも可、その際は通常のフィールドプレイヤーと同じ扱いとなります。)

#### ルール②「ボールの保持時間」

各選手には、障害の度合いにより3秒、5秒、10秒の持ち時間が決められ、その制限時間内しかボールを保持し続けることはできません。どの時間を適用するかは、チームの指導者が決定し、あらかじめ体育連盟(主催者)に届け出ています。

#### ルール③「ボールタッチ」

上肢等のまひなどにより、パスされたボールをキャッチすることが困難な選手は、ボールが身体や車いすなどに触れたことで、ボールを保持したと認めます。一方、ボールキャッチが可能な選手はボールに触れただけでは保持は認められません。どちらを適用するかはチームの指導者が決定します。

#### <観客編>ハンドサッカー観戦時の楽しみ方

<注目①> フィールドプレイヤーは、練習で培った堅守や連携プレーを見せ、絶妙なパスを回します!

<注目②> スペシャルシューターはボールを受けていかに巧みにスペシャルシューターエリアに持ち込むかで大量得点の糸口を作り出します!

<注目③> ポイントゲッターは、日頃練習し積み重ねてきた一番得意なシュート方法で得点の上積みをしていきます。しかし、オリンピック然り、大舞台の大観衆の声援、何百人が祈る様に見つめる中で、制限時間以内に(筋緊張のコントロールも含め)平常心でシュートできるか!

<注目④> ゴールキーパーは、最後の砦であるとともに、フィールドプレイヤーと同様に攻撃に参加することもできますが、素早く戻らないと空いたゴールが狙われます。どれだけ、ボールの動きを先読みして守れるか!

<注目⑤> 監督・コーチの動きにも注目です。タイムアウト時の作戦伝授で何を伝えたのか?

監督の口びるの動きから推測するとともに、その後の選手の動きの変化を追ってみましょう。

<注目⑥> 待機選手席にも注目です。どの時点で誰が投入されるかも得点の機会を作るポイントです。

<注目⑦> 各校の応援団の個性にも注目です。学校からの横断幕、法被、揃いのポロシャツなど、力の入れようが伝わってきます。

\*大会はどなたでも観戦できます。

## 祝！肢：訪問学級高3生作品が全国教育美術展 地区審査で入選

在宅訪問学級高等部3年生の西村夏来さんの応募作品(写真)が、公益財団法人教育美術振興会主催の第83回全国教育美術展の激戦の東京地区審査会において入選作と認定され、全国審査会に進んでいるとのことのお知らせが校長宛に届きました。おめでとうございます。最終審査結果は、2月上旬に届く予定です。吉報を待ちましょう。

「タイトル：海辺の夕日」



## 祝！墨東生アート作品を通じた交流蓄積が優秀賞に！

財団法人東京都教職員互助会が主催（東京都教育委員会後援）する「地域とのふれあいを大切にされた教育活動」を奨励するための教育振興事業による表彰制度があります。（都内の小中高特約の約2,200校がエントリー可能です。今回は15チームの活動が受賞しました。）

今回、本校からは「墨東生アート製作チームによるアート作品を地域の芸術祭くアートパラ深川へ展示する活動を通して、肢体不自由特別支援学校で学ぶ児童・生徒の学び姿を知ってもらおうとの意図で武蔵野大学グローバル部学生との継続的な交流学习を重ねている実践」についての実績をまとめてエントリーしたところ、「ふれあい感謝状21優秀賞」となりました。

1月12日夕刻、ホテル東京ガーデンパレスで開催の贈呈式で優秀賞のクリスタル盾に加えて副賞として互助会賞も頂戴しました(写真)。この栄誉を全墨東生に還元できるように、副賞を原資として、以下の取り組みを行う予定です。

- ①アート関係も含めた学校図書を購入に充て、墨東ライブラリーに配架し、病部門も含めて誰もが借りて読めるようにします。
- ②正門内に掲げるウェルカムフラッグ（デザインはプロイラストレーターの小池アミゴ氏に依頼）を作成し、卒業生・入学生とその御家族や交流等に來校されるお客様を、個性豊かな墨東生が笑顔で迎える雰囲気を醸し出せるようにします。（具体化しましたら、再度お知らせします。）



## 祝！第3代校長：植竹勝彦（故人）様に叙勲・叙位

昨年逝去された本校第3代校長の故植竹勝彦先生が、永年にわたる特別支援教育への功労が認められ、12月19日の叙位叙勲伝達式で、御遺族が叙位「従五位」と叙勲「瑞宝小綬章」の伝達を受けられました。

植竹先生は、開校10周年の前後（平成7年度からの5年間）に本校の指揮を執られました。箱根に在った健康学園（全寮制の病虚弱教育の場）で教員生活をスタートされた先生には、病氣と闘いながら学ぶ子供達への熱い思いがあったことでしょう。国立がん研究センター中央病院のベッドサイドに教員がしかけて行う形の病院訪問学級としての教育が平成3年度からはじめられていましたが、植竹先生は、校長在任中の平成8年度、病院内の職員室に教員が常駐する型の「いるか分教室」設置へと発展させてくださいました。

御遺族一同は、叙位叙勲の御報告に12月26日に本校を訪問(写真)してくだ



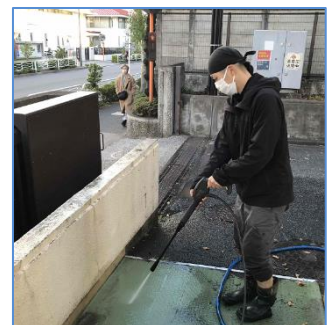
さり、植竹先生が本校の教育充実に打ち込まれていた頃の思い出を語ってくださいました。本校が現在（今年度は開校37年目＝開校36周年）に至るまでの初期段階に、教育充実に渾身のお力を注いでくださったことへの感謝と祝意を込めて全教職員で拍手を贈らせていただきました。

開校時より、このエリアでの肢体不自由教育・病弱教育の拠点を作り上げてきた幾多にわたる先人の皆様の志を全校挙げて引き継ぎ、節目となる4年後の2027年（開校40周年）に向かう次期走者にしっかりとタスキをつないで参ります。

## 卒業式に向けて墨東きれいプロジェクトを進行中！

◆冬休み期間等の機会を使って、業務用の高圧洗浄機を借り入れて、車いすの来校者が利用するグリーンの外通路、正面玄関の石段、正門内のスクールバスターミナル路面を業務員が洗浄しました。黒ずみが消え、30年前の白さが浮かび上がってきました。今後は毎年行っていきます。

◆夏休み期間中に、廊下等の残置物や不用品を一掃し、廃棄のために、校庭の一隅に仮置きしていましたが、運搬・廃棄の契約が成立しましたので、3学期中には搬出が完了し、すっきりとする見込みです。しばしお待ちください。



校長 田村 康二郎